

ドロップ平成 29 年度事業計画

1. 方針

利用者の個別のニーズに応え、地域での生活がより豊かなものになる様、支援を行う。

2. 目標と支援内容

① GH の利用者の余暇支援を充実させる。

ア 利用者の希望を基に、担当職員と相談をしながら、移動支援を実施する。

イ ドロップ企画の余暇外出を実施し、余暇の幅を広げ、また、利用者同士の交流を図る。

大人数でのバスハイクや旅行以外にも、利用者が様々な体験を出来る様、少人数での外出や旅行なども実施する。バスハイクや旅行については、車椅子の利用者が参加し易い方法も考えてゆきたい。

また、恒例の夏の甲子園旅行については、参加利用者の重度高齢化により、暑さによる体力的な負担が大きくなった為、今年度より春の甲子園旅行に変更する。

余暇外出の予定は以下の通り。

5月 GW 宿泊旅行（横浜・三浦海岸、1泊2日）

6月 ビール工場でバーベQ

8月 バスハイク

10月 バスハイク

11月 海外旅行（2泊3日）

12月 食事会

12～1月 正月旅行

3月 春の甲子園

ウ 手芸クラブ（月2回）、個人の手芸教室を開催する。

～手芸クラブ

利用者の希望を聞き、季節の行事なども意識しながら、偏りが無いよう色々な手法でのプログラムを提供する。また、さくらほりきりの手作り作品展に出展し、鑑賞外出を行う。（10月）

～手芸教室

個人の手芸教室を行い、その人に合った「もの作りの楽しさ」が味わえるようなプログラムを提供する。また、さくらほりきりの手作

り作品展に出展し、鑑賞外出を行う。(5月)

エ 公文の教材を利用した学習会を開催する。

～余暇の時間に学習できるプログラムを見つける。また、継続的に学習が出来る様な方法の導入付けを行なう。

オ 料理教室を開催する。

GHの利用者を対象とした少人数の料理教室を開催する。(年4回)

② 在宅の利用者及び高齢利用者のニーズに合わせた支援を拡充する。

余暇支援のみならず、通学通所通院同行、入浴介助、家事援助、見守りなど、在宅ならではのニーズに応じてゆく。

また高齢利用者特有のニーズにも柔軟に対応する。

③ ヘルパーの質の向上

ア 必要な研修に参加し、援助技術を向上させる。特に、全身性障害者ガイドヘルパー研修をドロップの職員は今年度中に全員受講する。

イ 支援報告書などから課題を見つけ、ヘルパー間の情報交換を密にするなどして解決方法を探り、次の支援に確実に活かしてゆく意識を持つ。

ウ ファイルマネージャーを活用し、支援報告書を誰でも閲覧し易くする事でGH職員と情報を共有し支援に活かせるようにする。

エ 引継ぎミスを防ぐ為、引継ぎは基本、書面かメールで行う様にする。

オ 居宅介護、行動援護の利用者については、定期的にモニタリングを行い、支援計画を作成する。

3. 会議の開催

ドロップ会議を月1回開催する。また、その他にヘルパーミーティングも適宜行う。

4. 各担当

① ドロップ内担当 ヘルパー手配など／余暇企画／手芸、公文、料理教室／記録整理／事務

② 法人内委員会

広報委員会

労働安全衛生委員会

第7次プロジェクト策定委員会